

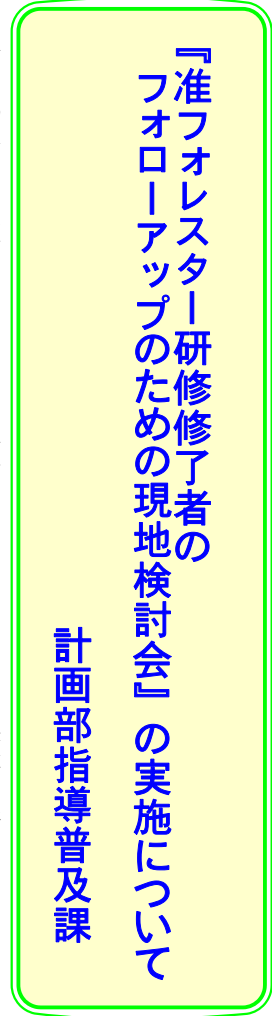
『准フォレストアー研修修了者の フォローアップのための現地検討会』 の实施について

計画部指導普及課

平成25年度の准フォレストアー研修は、利根沼田森林管理署におけるブロック研修、各地域での通信研修、東京での集合研修が予定どおり実施され、2年目のカリキュラムを終えようとしています。

このような中で、関東森林管理局では、今後の准フォレストアー活動の一助とするため、これまでに准フォレストアー研修を修了した者を対象に、研修では十分に伝えきれない部分を補完し、併せて各地で活動する准フォレストアーの相互の連携を深めることを目的として、1月30～31日に茨城県笠間市にある関東森林管理局森林技術センター管轄の試験地などにおいて、フォローアップのため

の現地検討会を実施しました。
今回の現地検討会には、県職員15名と国有林職員9名の研修修了者が参加するとともに、講師として宇都宮大学谷本名誉教授、森林総研の正木群落動態研究室長、太田同室主任研究員の3名にご協力をいただきました。



1日目は、森林技術センターに集合し、冒頭に関東局池田計画部長より「准フォレストアー研修では、あまり時間のとれなかった将来の目標林型や森林の配置を考える機会にしたい。試験地には普段みられない高齢級の複層林やモザイク林等があり、各地域で森づくりを指導する上でのヒントになることが多くあると思う。」との挨拶により開講しました。
その後、点状・列状・帯状など上木の保残方法の違いなどによる8タイプ

の複層林試験地」(つくば市)に移動して、森林施業についての検討が行われました。
参加者からは、ある程度の時間を経過した複層林の現状を見る機会は貴重という声や、上木の保残条件による下木の成長の違いが明確に見取れるなど、興味深く観察していました。



複層林試験地の検討



モザイク状施業の説明



溪畔林の再生へ向けて

また、長期育成循環施業区におけるモザイク状の分散伐採と更新方法については、将来性のある取組みであるとの関心が示されました。
試験地での現地検討後、筑波研修センター(つくば市)に移動して、3人の講師から最新の知見に基づく講演をいただきました。
その中では、これまで定説と考えられていたことを単純に信じるのは危険であり、常に科学的な知見に関心を寄せ、現地の条件に応じ妥当な判断を下せる能力を身につけることが重要なこと。
またこれまでの林業政策を振り返

る中で森づくりの原理原則を確認することが大事である等の貴重な話が盛りだくさんで時間が足りませんでした。しかし、現地の感想も含め活発な意見交換を行いました。

2日目は、広葉樹の導入等による林分内容の多様化を図り、木材生産機能と公益的機能のバランスのとれた森づくりのための森林管理手法を確立するための試験区が設定されている「大沢試験地」(東茨城郡城里町)において、立地条件に応じた森林のゾーニングとそのために必要な森林施業について検討を行いました。
特に溪畔保残区においては、溪畔林の重要性と再生の考え方について、溪畔林の再生を目指し、植栽されたハルニレ等を見ながら、具体的な意見交換を行いました。

最後に森林技術センターに戻り、講師による総括並びに計画部長から今後の民国連携推進に向けた激励の挨拶で検討会を締めくくりました。
今回の現地検討会では、准フォレストアーの更なる技術力の向上と准フォレストアー同士の横の連携を深める観点から全国で初めての取り組みを行いました。民有林と国有林のフォローアップが一体となった活動のフォローアップに努めていきたいと考えております。